

令和2年2月7日

瀬戸市議会議長

様

瀬戸市

「瀬戸市障害者手当」および「瀬戸市心身障害者交通料金助成事業」を一本化し、「瀬戸市障害者交通手当」として存続のお願い

1. 陳情の趣旨

現在の瀬戸市のコミュニティバスは路線の設定が住民の実情に合わず、西友瀬戸店やアピタ瀬戸店にはとまらず、ハロー瀬戸西店などは瀬戸市に立地するにもかかわらず、尾張旭市のコミュニティバスの3分1程度の本数しか運行せず、買い物に利用するのに不便です。陶生病院への通院についても、「こうはん線」などは1時間半に一本程度しかなく、しかも定員数が限られ、通院には使えません。買い物や陶生病院への通院などは、障害者はタクシーを利用せざるを得ないため、現在「瀬戸市障害者手当」の受給資格のある所得制限内の低所得の障害者にとって、その負担が家計を圧迫しているのが実情です。この点尾張旭市の障害者比べ負担が大きいと考えています。

2. 陳情の内容

- (1) 現在の「瀬戸市障害者手当」と「瀬戸市心身障害者交通料金助成事業」を一本化し、「瀬戸市障害者交通手当」として継ぐ。
- (2) 「瀬戸市心身障害者交通料金助成事業」で実施している「タクシー利用券」や「自動車燃料費助成券」の配布を廃止する
(年間 2,500万円の支出減)
- (3) 現在の「瀬戸市障害者手当」を減額して「瀬戸市障害者交通手当」として継ぐ。
- (4) 「1種」対象者の支給額の1割をカットし、「2種」の支給額の5割をカットすれば、「1種」で1,170万円の支出減、「2種」で1,170万円の支出減となります。
(年間 2,340万円の支出減)
- (4) 現在コミュニティバスの運賃は、身体障害者手帳等を携帯している人は、本人と付き添い1名を半額としている。尾張旭市や長久手市などと同様の

無料とする

(5) 年間 4,840 万円内の支出カット分を源資にミニバイスの運行を抜本的に改め、現在起きている以下の問題を解決する必要がある。

- ① 買い物や陶生病院の通院が困難な人や家庭に十分な車が必ずしもその負担が家計を圧迫することが多いとして人口の流出を抑制する取り組みを担っていること
- ② 同様の原因で空き家が増え、空き家の対策費が増えていること。
- ③ 車を利用できない人にとって陶生病院へ行くよりも、愛知医科大学病院へ行った方が便利な地区があり、陶生病院へ通院する人が減っており経営を圧迫する要因となっていること。
車を使えない人にとっても、病院近くの渋滞などが、より陶生病院へ行くことをためらわせている。
また愛知医科大学病院と違い、車がないと行けなければ、必要以上に大きな駐車場が必要となり、その建設費が経営を圧迫している。
- ④ 多くの高齢者、障害者が買い物や通院にミニバスを利用できないため、高齢歩行者の事故が多発している。
- ⑤ 高齢運転者も免許証を手放せなければならない。

※ 金がかかっても、尾張旭市並みの 26~27 人乗りのマイクロバスを市の中心部を循環させた方が、稼収アップや空き家対策費の減少、陶生病院の支援コストを引き下げることができ、トータルでプラスになると思われる。

3. 尾張旭市のミニバイスの利便性について (参考)

瀬戸市のすぐ隣を運行する東ルートの利便性

① 買い物に利用できる施設

イトーヨーカドー尾張旭店 (バス停、イトーヨーカドー前)、ヤマカミ三郷店 (イトーヨーカドー前)
タキヤ長久手店 (南柴町バロー前)、マール三郷店 (南原山町赤土)
スールアスカ店 (市役所)、やまひに尾張旭 (狹宿町アカバネ前)
バロー城山店 (北原山町バロー前)、バロー瀬戸西店 (西本地橋バロー前)

② 病院

愛知医科大学病院 (バス停 愛知医大)

③ 電車への乗り継ぎ

三郷駅 (バス停 三郷駅北)、尾張旭駅 (バス停 尾張旭駅)

④ その他

森林公園 (バス停 森林公園)、尾張旭市役所 (市役所前)